

4 年末年始行事自由記述欄のまとめ

- ①調査目的：豊岡市立歴史博物館での企画展「新春を迎える」(2021年10月～2022年1月)の事前調査
 ②調査媒体：調査票(2021年6月10日～2021年12月10日)及びインターネット(2021年8月30日～2022年1月31日)
 ③利用条件：二次利用される場合は「豊岡市立歴史博物館提供」などと出典を明記してください(申請は不要です)。
 ④注意事項：公共性や品位を損なう恐れのある利用はせず、加工・変更後の資料を市が作成したような態様で公表しないでください。

地区	内容
01豊岡(小田井)	蓬莱飾りを12/31までに飾った。元日に酒を回し飲み、最初は子、最後が年長者。蓬莱飾りの米はいつ食べるか不明。
01豊岡(小田井)	中華めんのつけ麺が我が家の定番。オードブル、寿司、自宅で調理したおせち料理を食べる。
01豊岡	元日は相手方から送られてきた年賀状の返信を書く。
02八条	1月4日は福わかしてお粥に餅のかけらが入ったもの、1月6日は6日年越しで夜に蕎麦を食べた。
04田鶴野(下鶴井)	45年前に嫁いだ時は、床の間飾りと三宝に鯛2匹、腹合わせに並べて飾った。
03三江(栄町)	羽子板で家の前で遊んだ。父は家族で麻雀をしていた。
05五荘(福田)	大晦日に蕎麦と「焼きおにぎり」を家族で食べた。
05五荘(栢江)	「御日待」として1月6日に夜に区民が寄り合い布久比神社・九龍神社にお供えの「鏡餅」(鏡開きに餅を割って区民が区民がいただく。区民が賄をいただく。昔は日付が変わるまで集まっていたそう)。
05五荘(江野)	隣保単位で秋葉講(年1回)、社日講(年2回)、戸別持回り(掛け軸)を6～7年前まで実施していた。
05五荘	2日は箱根駅伝を見る。
10神美(市場)	正月は「正月げた」、盆は「盆げた」を買った。
11城崎	正月には祖母の主催で「ほうびき(宝引き?)」をした。お年玉とは別に景品をもらえて楽しかった思い出がある。
12竹野南(桑野本)	12/31にどんどを朝夕2回実施し、朝のものを「ちゃんちゃ」、夕方を「どんど」と呼んでいた。
12竹野南(桑野本)	元日の朝にあいさつ、「祝いそめます」と言って、蓬莱山の年取り柿を家族で1つずつ食べる。かつては抹茶を飲んだ。
12竹野南(森本)	1/1～1/3にその日の干支と誕生年が同じ人に大根の輪切り、じゃこ、紅白かまぼこを祝い膳として出す。
14竹野(草飼)	「みい」(箕)に餅を2段重ねて飾る。居間に「三宝」を飾る。三宝の米は七草がゆにして食べる。
14竹野(上町)	1/2に書き初めと、浜でたこあげをした。
14竹野(上町)	餅つきは実家で12月30日に行ったものを持ち帰る。
14竹野(西町)	<p><海苔の収穫と乾燥></p> <p>①海苔(「寒海苔」)は、岩肌で入手する。11/4の入札で岩ごと購入する家もある。 ②11月下旬ごろに海苔を収穫し、海水で洗ったのち(「つやがでる」)、真水で洗う。 ③海苔を四角形の枠にたたきようにして入れる乾燥させる。 ※市販の有明海苔などは不可。</p> <p><雑煮></p> <p>①すましが多いが、みそでもよい。 ②餅は焼かず、そのまま入れて煮る。 ③海苔は雑煮を椀に入れたあとに入れる。海苔をストーブで軽くかぶったのち、手でもみほぐし、餅が少しだけ隠れる程度にふりかけ(鯉節と同じような感じで)、香りを楽しむように食べる。</p>

4 年末年始行事自由記述欄のまとめ

- ①調査目的：豊岡市立歴史博物館での企画展「新春を迎える」(2021年10月～2022年1月)の事前調査
 ②調査媒体：調査票(2021年6月10日～2021年12月10日)及びインターネット(2021年8月30日～2022年1月31日)
 ③利用条件：二次利用される場合は「豊岡市立歴史博物館提供」などと出典を明記してください(申請は不要です)。
 ④注意事項：公共性や品位を損なう恐れのある利用はせず、加工・改変後の資料を市が作成したような態様で公表しないでください。

地区	内容
17日高(夏栗)	2021年はコロナでどんどがなかった。子どもが小さい頃は出石神社に自家用車で参った。ふるまい酒と出石焼の「えと皿」(白磁)をいただいて帰った。
17日高(日置)	子どものころは、どんどは12月31日の「大どんど」、1月7日の「わらどんど」、15日の「どんど」と3回あった。1月7日のどんどのときに、書き初めの半紙を持を燃やし、上に舞い上がれば習字が上手になると言われていた。
18三方(栗山)	ふくわかし：神仏に供えたものを鍋に入れる。きれいに洗った10円玉を入れて炊き、小さなお椀に入れていただく。10円玉が入っていたら「当たり」。1/4～1/5に行く。
18三方(荒川)	12/31になますとじゃこを神棚に供える。1/1に干し柿を1個ずつ食べ、熱い茶をいただく(ふくわかす)。その後、雑煮を食べる。
19清滝	正月飾りは「今年も豊作になりますように」という祈りを込めて農作業場にも飾ります。
20西気(万場)	初詣は1/3に寺から来る(民宿が多い、雪が多いため)。東を向いて二拝二拍手一礼し、吊るし柿を取り、茶を飲んで年を取る。蓬菜を飾る。
94日高町内(詳細地区不明)	1/1に学校に行って全員年頭のあいさつをした。
21弘道(小人)	元日～3日ごろに和服で初詣をする。三が日は女性は台所に立たないが、元日の雑煮以外は女性が作る(雑煮は家長が作る)。祝箸に家長が家族の名前を入れ、その箸でおせちを食べ、元日は朝から酒を飲む。菩提寺のお寺さんが年賀に来る。
21弘道(川原)	どんどの灰を家の周りに置いた。
21弘道	鏡餅は親戚からもらう。
25小坂(長砂)	現在も元日の朝に茶と干し柿で新年のあいさつをして雑煮をいただく。
27資母(口藤)	元日の朝に家族で新年のあいさつをしたあと、茶と干し柿を食べてから朝食(雑煮と煮しめ)を食べた。子供は干し柿を食べた後、お年玉をもらっていた。
27資母(中藤)	雑煮の丸餅は焼いてから入れ、元日はすまし、2・3日はぜんざい。正月飾りとして、黒い膳の上に生米を山盛りにし、その周囲に柿、上端に昆布で巻いたみかんを置く。
27資母(東里)	(与謝野町での子どものころは)色々な行事をしていた。嫁いできて何もなくて驚いた。12月15日ごろに報恩講があり、公民館の仏壇に花を飾る。
27資母(木村)	家の者が嫌がるものは作らない。
29高橋(久畑)	雑煮は米麴みそ。
29高橋(久畑)	床の間飾りは、うらじろ、藁で編んだ眼鏡、ごぼう。
29高橋(久畑)	どんどは子供会の行事に参加。
29高橋(薬王寺)	元日の朝、昔は男が火をつけ茶を沸かした。「ぜにかね、ぜにかね」と言いながら豆がらにパチパチと火をつけた。柿を供え(食べ)、茶を飲み、雑煮を食べた。
29高橋(薬王寺)	家長が早く起き、茶を沸かす。
養父市八鹿町八木	狐狩りがあり、家にある缶などを取っ手に付け、木の棒などで叩いて音を出しながら「きつねがりそうろう～おにが(げ?)りそうろう～」と言いながら村を練り歩いた。村の端と端に竹か笹を飾った
養父市関宮町(鉢伏高原)	正月の朝は母に代わって父が雑煮を作っていた。囲炉裏があり、父が底に火を焚いていた。そのまわりで雑煮を食べた。10歳のころから民宿を始め、正月は客が来た。彼らと一緒にトランプをして楽しかった。

4 年末年始行事自由記述欄のまとめ

- ①調査目的：豊岡市立歴史博物館での企画展「新春を迎える」(2021年10月～2022年1月)の事前調査
 ②調査媒体：調査票(2021年6月10日～2021年12月10日)及びインターネット(2021年8月30日～2022年1月31日)
 ③利用条件：二次利用される場合は「豊岡市立歴史博物館提供」などと出典を明記してください(申請は不要です)。
 ④注意事項：公共性や品位を損なう恐れのある利用はせず、加工・改変後の資料を市が作成したような態様で公表しないでください。

地区	内容
富山県砺波市	正月には「すわい」(紅白なます)、かぶらずし、ぎんなんを食べる。ブリの照り焼きもあったような記憶がある。
静岡市	おせちをつまみ食いしていた。
愛知県田原市	餅つきは12月30日と決めている。1月2日にはパソコンデータのバックアップを取る。
東京都多摩ニュータウン	①「一夜飾りはいけない」と親から聞いているので、正月飾りを大晦日に飾ったことはない。 ②ニュータウン開発前には村落内の下部組織(講中)でセトヤキ(セノカミ)が1月14日の晩に行われていた。現在はほぼ通学校区単位で、開発前よりも規模を大きくして1月14日近辺の日曜日に行われている。呼称はドンドヤキが普及している。 ③居住している地区に隣接する自治会(開発前から住んでいる人)が毎年1月14日の夜にドンドヤキでオタキアゲをするので、都合が合えば行事を見学しながら自宅の正月飾りを燃やしてもらう。ドンドヤキのオタキアゲの日で炙った団子(厄除け)をもらう。
神奈川県横須賀市	①10年ほど前はスーパーで購入した鏡餅をリビング(神棚や床の間がない)に飾っていた。正月明けの鏡餅の処理(食すること)が大変なので白木のレプリカの鏡餅を購入し、以来、それを飾っている。 ②12月29日と31日は餅を搗いたり(クンチ餅)、正月飾り(一夜飾り)をしたりはしない。 ③実家(横須賀市)では大晦日には必ず年越しそばを食べる。婚家(嫁ぎ先)では年越しそばを食べない。東京出身の義父母は家の跡を継いでいないので、新所帯として自分たち独自の生活スタイルを築いてきたようである。結婚した当初は、実家との食生活の違いに驚くことが多かった。 ④婚家では大皿に盛った手作りのおせち料理を大晦日に食べる。新年を迎えると、おせち料理は重箱に入れて出す。 ⑤餅を焼くのは男性、雑煮を作るのは女性。 ⑥お雑煮の角餅は焼く。かつお節(市販の顆粒だし)・醤油・酒・みりんを入れ、具材は雑煮用の鶏肉・小松菜・ゆでた大根とサトイモ・ネギ・ナルト。椀に入れてから薄くスライスした柚子を散らす。 ⑦元日の朝に汲む水道水を若水として、この水で雑煮を作る。お屠蘇は飲まないが、日本酒で新年を祝う。箸袋に名前は書かないが、正月用の祝いの箸を購入して使う。 ⑧元旦に掃除をすると、福を掻き出すとってしない。もっとも暮に大掃除をして、大晦日にも掃除をしているので、元旦に掃除をする必要はない。元旦にお金を使うと、一年中お金が出ていくといわれ、使わない。また喧嘩をしたり怒ったりすることもいけないといわれている。 ⑨2日に「とろろ汁」を食べる。
滋賀県野洲市	2日は年賀状を新しくもらった人への返礼を書く。
岡山県東部	1月15日が祝日だったころは毎年家族旅行をしていた。
熊本県天草市	元日以外は雑煮を食べない。雑煮の餅は必ず網で焼く。
宮崎県西都市	徐々に既製品の利用が増えてきた。

〔問合せ先〕

豊岡市立歴史博物館(文化振興課文化財室)

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布808

電話番号：0796-21-9012 ファクス番号：0796-42-6112

メールアドレス：bunkazai@city.toyooka.lg.jp